

2018年5月 キューバ医療事情

下記情報は当地報道を抄訳したものです。詳しくは原文をご参照下さい。

【キューバ医療事情】

5月2日【CIBERCUBA】

“キューバで癌治療のための最初のサイクロトンが導入”

IAEA（国際原子力機関）の物理・核安全保障局の次長が CIMEQ の診断・放射線治療センターを訪れ、キューバで最初のサイクロトンの設置が発表された。既に12月にはサイクロトンの設置は終了している。

5月12日【CIBERCUBA】

“キューバにおいて白内障は失明の主な原因”

ラモン・パンド・フェレール眼科病院が行った調査によると白内障がキューバにおける失明の主な原因であった。60歳以上の人口が20.1%と高齢化が進んでいるキューバでは今後、白内障患者は数年で増加すると予想されている。今回の調査には全国の112医療施設において50歳以上の4千人が参加した。

5月14日【el Nuevo Herald】

“キューバはガーナに対して医師による負債を請求”

第三世界における医療協力を担当しているキューバの保健省大臣は、ガーナを訪問し9月以降ガーナに配属された100人の医師の支払がガーナ政府からないことに対して遺憾の意を表明。キューバ医療旅団に対するガーナの負債は、8年間に渡り470万ドルにもなる。今までのところ首都アクラにいる医師のみが政府から給料を受け取っている。

5月14日【CUBADEBATE】

“キューバでデング熱の流行を警告”

キューバ公衆衛生局は、デング熱の重大な流行に関する警告を発した。デング熱はこの地域では新しい病気ではないが、大流行の可能性があるため準備が必要である。そのため雨期が始まる前に準備をしなければならぬ。

5月15日【CUBADEBATE】

“キューバと中国、製薬会社設立で合意”

キューバと中国は北京で、キューバの世界的に効果が認められている医薬品を生産する合弁会社を設立する覚書に署名した。この合弁会社は、キューバが特許を持つ心筋梗塞や脳梗塞、癌や神経変性疾患に対する薬を生産予定で、マリエル特区に設立される。

5月17日【CIBERCUBA】

“外国人対象のスペインの救急移送機がキューバに到着予定。”

医療システムに多くの問題や欠点をかかえているキューバは、キューバで外傷や突然の病気に苦しむ外国人観光客に対して新たな医療サービスを提供予定。救急移送機1機がキューバに運ばれ、緊急対応する。外国への緊急移送サービスは、キューバ人は対象外。このビジネスが実現すれば、外国人にとってより安全となり、観光業の発展につながる。

一方、キューバの病院やポリクリニコは救急車不足に苦しんでいる。主に農村では移送する車が足りないことで多くの患者が、治療を受けられず亡くなっている。

5月21日【Granma】

“飛行機事故についての質疑応答”

ホセ・マルティ国際空港近くで5月18日に起きた飛行機事故の報告

事故は5月18日金曜日午後12時8分に発生した。ハバナ発オルギン行き DMJ0972 便で乗員と107人の乗客を乗せたクバーナ航空が借り受けたボーイング737-200が、離陸直後にホセ・マルティ国際空港とサンティアゴ・デ・ラス・ベガスの町の間に真っ逆さまに墜落した。交通省当局によると飛行機には合計113人搭乗。58人の女性、55人の男性。

乗員は6人のメキシコ人。乗客は107人。102人はキューバ人で7つの県に在住。67人はオルギン県在住。観光客は2人のアルゼンチン人と1人のメキシコ人。キューバで学生をしている西サハラ出身者が2人。事故当時、4人が生存していたが、一人は搬送途中で死亡。3人とも女性で重体。カリスト・ガルシア大学病院で治療を受けている。患者達は、手術を施行され治療中。予断を許さない状態。

キューバ民間航空局の調査委員会は、内務省と協力して徹底的な調査を行っている。109人の全ての犠牲者の遺体は5月19日午前3時半までに全て法医学センターに搬送された。遺体確認作業は、困難が予想されている。

交通省によるとブラックボックスは回収され、フライトレコーダーは現在探索中。今回の飛行機を製造したボーイング社は、調査の参加を申し出ており、キューバも了承した。その他の国際専門家も調査に参加する。交通省によると米国による経済制裁のため飛行機の購買が困難であるため、クバーナ航空が外国の会社から飛行機を借りることは一般的である。今回の例では、グローバル航空に整備の責任がある。この飛行機を借りて1ヶ月も経っていない。

5月27日【el Nuevo Herald】

“熱帯低気圧アルベルトによる豪雨によりキューバ人5000人以上が避難”

サンクティ・エスピリトゥ県とビジャ・クララ県で熱帯低気圧アルベルトの豪雨による河川の氾濫により5000人以上が避難した。サンクティ・エスピリトゥ県のキューバ最大のサ

サダム周辺の洪水危険地域の住民 3600 人が避難し、ビジャ・クララ県でも土砂崩れの危険性のある地域住民約 2000 人が避難した。

5 月 28 日【CUBADEBATE】

“キューバは神経学的治療のため 96 ヶ国からの患者を受け入れている。”

CIREN（国際神経回復センター）には、ここ 5 年で 96 ヶ国から毎年 550 人以上の外国人患者が受診。パナマの観光フェアで、CIREN の院長は、世界のどこにもみられないような複数化による集中的で個人的な治療を行うサービスを提供すると述べた。CIREN のリハビリテーション・プログラムでは 1 人の患者に対して 11 人以上の専門家が担当し、月曜日から土曜日まで 1 日 7 時間以上のリハビリが行われる。現在のところ患者の多くはメキシコ人であるが、チリや米国、ベネズエラ、アンゴラ、イタリア、ポルトガル、ボリビア、パナマからも受診している。

5 月 30 日【Diario de Cuba】

“熱帯低気圧アルベルトの通過によりキューバで 4 人死亡し、シエンフエゴス精油所の流出事故発生。”

熱帯低気圧アルベルトは 5 月 25 日の金曜日にカリブ海で発生し、29 日火曜日にはキューバを通過した。その後も豪雨は続きシエンフエゴス県、サンクティ・エスピリトゥ県、ビジャ・クララ県、マタンサス県が主に被害を受けた。アルベルトの豪雨により 4 人が亡くなり、橋の崩落やシエンフエゴスの精油所では廃水の流出事故が発生した。合計で 4 万人の人が避難し、1384 棟の家屋が被害を受け、174 棟の家屋が崩壊した。また農作物への被害も大きく、トウモロコシやキャッサバ、豆、米、サツマイモ、タバコといった作物の被害が報告されている。

昨年のハリケーン・イルマから完全に立ち直っていないキューバをアルベルトは直撃した。